

種ヶ嶋 尚志 准教授

スポーツ科学部

スポーツ科学と臨床心理学の複合領域を研究

臨床心理士としてカウンセリング  
アスリート・メンタリティーの研究も



種ヶ嶋 尚志(たねがしま・ひさし)

平成11年本学文理学部卒。同年同学部体育学研究室助手。14年慶応大学体育研究所非常勤講師。医療法人悠希会心療内科心理カウンセラーなどを経て19年聖徳大学から心理学博士の学位授与。20年東洋大学文学部非常勤講師。23年大東文化大学スポーツ・健康科学部特任講師。26年本学工学部総合教育准教授。28年スポーツ科学部准教授。日本心理臨床学会、日本心理学会、日本スポーツ心理学会、日本体育学会に所属。出身地は長崎県。42歳。

種ヶ嶋准教授は心理学やスポーツ心理学を講義する一方、スポーツ科学と臨床心理学が複合する領域を、臨床心理士の有資格者として研究している。スポーツ心理学は、スポーツを心の面から研究する。臨床心理学は、精神障害や心身症などの回復、予防、研究が目的。臨床心理士は、臨床心理学に基づく知識や技術で人間の心の問題を扱う。例えば、プロ・アマを問わずアスリートが競技への強い不安や緊張を抱えたり、摂食障害やうつ病になったりした場合は、面談(心理カウンセリング)として、日常生活や競技にどう適応していったらいいのか、時間をかけて一緒に考える。それはそのまま、次の研究にもつながっていく。

種ヶ嶋准教授の主な学術論文のタイトルから、具体的な研究内容が分かる。いくつか列挙する。

自分に向き合い興味

種ヶ嶋准教授は、学生時代に文理学部の体育学科で学んだ。そのころ、自分自身の問題と向き合

いたことの思いから心理カウンセリングを受け、臨床心理学に興味を持つようになった。卒業後は体育学研究室で副手を務め、慶応大の体育研究所で講師も経験。スポーツ分野の知見を深めながら、臨床心理学やサイコセラピー(心理療法)の勉強も始めた。

その後、千葉県の児童相談所で心理判定員、埼玉県の心療内科で心理カウンセラーも任された。さらに東京都立学校、埼玉県立学校の各スクールカウンセラーを歴

任。子どもたちの不登校や問題行動などに対応して、心理学の貴重な臨床経験を積み重ねた。ほぼ同時期に、聖徳大

大学院で心理学博士の学位を授与された。臨床心理士としての種ヶ嶋氏の下を訪れる人(クライエント)は、年間4、5人。数カ月から数年かけて、カウンセリングを続ける。各クライエントの価値観を尊重しながら、それぞれの症状と上手に付き合っていく方法を共にじっくりと探していく。

これまでに、競技成績や人間関係の不調から「うつ状態」になったアスリートや「あがり」を訴えるアスリートがいた。クライエントではないが、スポーツ科学部の

学生の中にも「自分の心を強くしたい」などと、心理相談にやって来るケースが複数あるという。

種ヶ嶋准教授は、今後の主な研究として①アスリートが健康的に競技力向上できる心理学的視点をどう提供できるか、といったアスリート・メンタリティー(心性)の研究②アスリートの引退後のキャリア形成に停滞を来さないアイデンティティ発達の研究などをテーマに選び、取り組んでいる。



本学軽井沢研修所でスポーツ心理学研究会の学生たちと

休日は学会や研修などでつぶれることが多い。の幼い愛息とスキンシップを図る。

学生時代はテニスに親しんだ。腕前はコート級のテニス部顧問やスポーツ心理学研究会の顧問を務める。犯罪心理を扱った映画を見るのも好きで、話題作「葛城事件」がDVD化されるのを楽しみにしている。

種ヶ嶋准教授は、学生時代に文理学部の体育学科で学んだ。そのころ、自分自身の問題と向き合

いたことの思いから心理カウンセリングを受け、臨床心理学に興味を持つようになった。卒業後は体育学研究室で副手を務め、慶応大の体育研究所で講師も経験。スポーツ分野の知見を深めながら、臨床心理学やサイコセラピー(心理療法)の勉強も始めた。

その後、千葉県の児童相談所で心理判定員、埼玉県の心療内科で心理カウンセラーも任された。さらに東京都立学校、埼玉県立学校の各スクールカウンセラーを歴

任。子どもたちの不登校や問題行動などに対応して、心理学の貴重な臨床経験を積み重ねた。ほぼ同時期に、聖徳大

大学院で心理学博士の学位を授与された。臨床心理士としての種ヶ嶋氏の下を訪れる人(クライエント)は、年間4、5人。数カ月から数年かけて、カウンセリングを続ける。各クライエントの価値観を尊重しながら、それぞれの症状と上手に付き合っていく方法を共にじっくりと探していく。

これまでに、競技成績や人間関係の不調から「うつ状態」になったアスリートや「あがり」を訴えるアスリートがいた。クライエントではないが、スポーツ科学部の

学生の中にも「自分の心を強くしたい」などと、心理相談にやって来るケースが複数あるという。

種ヶ嶋准教授は、今後の主な研究として①アスリートが健康的に競技力向上できる心理学的視点をどう提供できるか、といったアスリート・メンタリティー(心性)の研究②アスリートの引退後のキャリア形成に停滞を来さないアイデンティティ発達の研究などをテーマに選び、取り組んでいる。

種ヶ嶋准教授は、学生時代に文理学部の体育学科で学んだ。そのころ、自分自身の問題と向き合

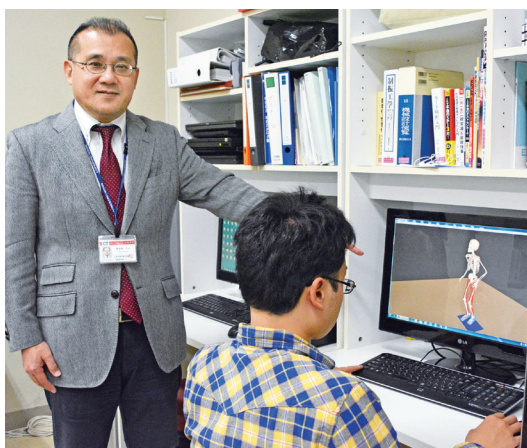
見坐地 一人 教授

生産工学部

自動車の振動・騒音解析のエキスパート

操縦安定性／静粛性の両立に腐心

数理モデル作りコンピューターでシミュレーション



見坐地 一人(みさち・かずひと)

昭和56年本学生産工学部数理工学科卒業。58年同大学院生産工学研究科博士前期課程修了。博士(工学)。本田技術研究所四輪研究所、主任研究員を経て平成21年生産工学部教授。自動車技術会、電子情報通信学会、日本機械学会などに所属。16年自動車技術会論文賞、14年、19年本田技術研究所論文賞。自動車技術会フェロー。三重県出身。59歳。

自動車大手ホンダの研究開発を担う本田技術研究所でクルマの振動や騒音を減らす研究に取り組んできた。母校に教授として迎えられるのは、長周期地震動が超高層ビルを揺らすメカニズム、人体の筋骨格数理モデルによる加齢や負荷が人体に与える影響解析と、研究対象を広げている。旺盛な探究心はとどまることを知らない。

現象を数式化

巨大な台風や地震・津波が日本を襲う。山が崩れ、河川が決壊する。建物

物が倒れ、人が流されている。異常気象が恒常化している。昨今、仮想現実の動画がテレビ番組に登場する。こうしたシーン

は、数理モデルにより作られる。自然現象から自動車の振動や音響特性、

人体の動きまで、全ての現象は数式で表せる。さまざまな条件を与えて変化を予測する。これが、

数理モデルによるシミュレーションだ。「自動車の振動・騒音は大きく分けて三つあります。第1にエンジンが出す騒音、2番目は道路から伝わるロードノイズ、第3は車体と空気の流れによる高周波の空力ノイズ。このうち私の専門は中周波のロードノイズです。振動・騒音発生

の数理モデルを開発し、対策の検討や効果をコンピューター解析します」

一見、平らに見える道路の路面にも凹凸がある。車体に伝わるショックを和らげるとともに、車体を安定的に接地させる主要部品がサスペンション(懸架装置)だ。「自動車メーカーによっては操縦安定性を重視するの

で、サスペンションをがっちり固める。柔らかくすると振動が少なく静かになるのですが、それはできない。『走りのよさ』を損ねるから。操縦安定性と静粛性の両立は難しい」

車のノイズ低減へ

ホンダでは21年間、主にロードノイズ対策に取り組んだ。その成果は主力車などに採用された。研究論文も数多く、一部は公益社団法人自動車技術会の論文賞を受賞した。

「かつては、ドイツ車がお手本でした」と振り返る。教授就任後も同技術会関東支部のベスト・ペーパー賞を2度受賞し、「フェロー」と「フェローエンジニア」の称号を受けた。

モーターを併用するハイブリッド車(HV)、モーターだけで走る電気自動車(EV)、燃料電池車(FCEV)が主流になれば、騒音対策が不要になるのでは? 「たしかにエンジン音は低下しますが、ロードノイズが目立つようになります。また、欧州を皮切りに車外騒音の規制が強化され、基準に適合しない車は販売できなくなります。このことから、特にタイヤのノイズ低減が課題となっており、研究を進めています」

学生時代には建物の耐震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学

震対策を研究した。大学



学生が集う研究室で数理モデルの作成、解析を指導

野球も研究テーマ

ものづくりがたくて入ったメーカーも職位が上がれば管理業務のウエイトが高まる。「もつと研究がしたい」と考えていた矢先、恩師が退任。後任として研究室を引き継いだ。大学では免震積層ゴムの開発、東京スカイツリーのモデル化など、かつて携わった建築分野でも企業と共同研究を行う。多様な学部を擁する本学ならではの連携研究にも取り組む。ヒトが運動する際、どの部分にどの程度の負荷がかかるか。食事や食物をかむ咬(こう)筋の動きを「人体数理モデル」で解析。

「動きと振動の関係を数理モデルでシミュレーションする」という点では、クルマも建物も、ヒトの体も同じです。現在、大好きな野球のピッチング解析も準備中です。この研究で日大野球部に貢献できればうれしい」

「動きと振動の関係を数理モデルでシミュレーションする」という点では、クルマも建物も、ヒトの体も同じです。現在、大好きな野球のピッチング解析も準備中です。この研究で日大野球部に貢献できればうれしい」

「動きと振動の関係を数理モデルでシミュレーションする」という点では、クルマも建物も、ヒトの体も同じです。現在、大好きな野球のピッチング解析も準備中です。この研究で日大野球部に貢献できればうれしい」

「動きと振動の関係を数理モデルでシミュレーションする」という点では、クルマも建物も、ヒトの体も同じです。現在、大好きな野球のピッチング解析も準備中です。この研究で日大野球部に貢献できればうれしい」

「動きと振動の関係を数理モデルでシミュレーションする」という点では、クルマも建物も、ヒトの体も同じです。現在、大好きな野球のピッチング解析も準備中です。この研究で日大野球部に貢献できればうれしい」

「動きと振動の関係を数理モデルでシミュレーションする」という点では、クルマも建物も、ヒトの体も同じです。現在、大好きな野球のピッチング解析も準備中です。この研究で日大野球部に貢献できればうれしい」

「動きと振動の関係を数理モデルでシミュレーションする」という点では、クルマも建物も、ヒトの体も同じです。現在、大好きな野球のピッチング解析も準備中です。この研究で日大野球部に貢献できればうれしい」